

～各時代の文化財を多く残す～ 鶴林寺

聖徳太子が仏教を広めるための道場として建てられました。

平安時代の壁画が見つかった県下最古の木造建築物、国宝「太子堂」や、泥棒が盗み出し壊そうとしたら「アイタタ」という声が聞こえていたため、改心したと伝えられている「銅造聖観音立像（あいたた観音）」など、多くの文化財が残されています。

戦国時代には周辺寺院が戦に巻き込まれるなか、寺領差し出しにより戦火を免れました。

各時代の文化財を残しているところは数少なく、歴代文化を後世に知らせるお寺として親しまれています。



新薬師堂の裏手に「特攻隊之碑」があります。軍の指定旅館であった、中村家旅館（加古川町寺家町）に宿泊した特攻隊員たちは出撃前夜、旅館に遺書を託して旅立っていました。

その魂を偲び旅館に碑が建てられていましたが、2001年（平13）に旅館の廃業に伴い、鶴林寺の新薬師堂の裏手に移されました。



「聖徳太子十二歳像」



QRコード

QRコード